

公開講演会（文学部主催・社会文化科学研究科共催）

「後期ローマ帝国における貧困と危機」

講演題目：「古代末期における危機管理—キリスト教司教書簡に見るその証言」

講演者：ポーリーン・アレン教授（Prof. Pauline Allen）（オーストラリアカトリック大学
初期キリスト教研究センター所長・前国際教父学会(AIEP/IAPS)会長)

司会者：出村和彦（本学文学部准教授）、

講演通訳：上村直樹（東京学芸大学非常勤講師）

質疑通訳：戸田聡（一橋大学非常勤講師）

日時：2009年3月21日 1400-17:00（講演：14:00-15:30 質疑応答：15:40-17:00）

場所：岡山大学文化科学系総合研究棟共同研究室

参加者数：15名

講演要旨

アレン教授は、初期キリスト教における「貧困」に関する日豪共同研究（文学部教員も参加）の終了を承けて立ち上げた豪州研究会議(ARC)新規研究計画、すなわち、蛮族の侵入や大多数の追放による住民移動(難民)、貧富の格差、集団的暴力行為、高利貸しや人身売買のような悪弊、過剰負担の訴訟制度など、古代末期における危機(crisis)に対して、キリスト教司教たちがいかに対処し管理(マネジメント)しようとしたかを1600通にも及ぶ5-6世紀の現存の司教書簡から明らかにするプロジェクトについて、その一端を具体的に紹介した。質疑は、今日の問題との接点を探る上での方法論上の留意点等について示唆に富むものであった。